

平成27年度
学校評価報告書



学校法人四天王寺学園 四天王寺学園小学校

学校評価検討委員会

目 次

1.	はじめに	1
2.	教育理念	2
3.	学校教育目標	3
4.	評価項目	4
5.	評価方法	5
6.	評価結果の分析と考察	6
7.	保護者アンケートの結果	1 2
8.	学校関係者評価	1 4
9.	重点目標に対する評価と課題	1 6
10.	評価資料	1 7

はじめに

学校の自主性・自律性が高まる上で、その教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指すことが重要です。また、学校が説明責任を果たし、家庭や地域、関連校との連携協力を進めていくことが求められています。

文部科学省は、学校教育法を平成19年6月に改正し、第42条において、学校評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図り、教育水準の向上に努めることを規定しました。また第43条においては、学校の情報提供に関する規定を新たに設けました。さらに、上記の学校教育法改正を受けて、学校教育法施行規則を平成19年10月に改正し、現在に至っています。

本校では、教育活動をはじめとする学校運営の状況について評価し、その結果についての説明責任を果たしつつ学校自ら改善を行っています。また、その結果に応じて設置者が必要な支援等を行い、本校における教育水準の向上・保証を目的とした学校評価システムの構築とその更なる充実・改善を図っているところであります。

学校評価とは、次の3つの評価をいいます。

① 自己評価

本校の教職員が行う評価 ※学校評価保護者アンケート

② 学校関係者評価

保護者・地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会が、自己評価の結果について評価することを基本として行う評価

③ 第三者評価

学校に直接かわりをもたない専門家等が、自己評価および学校関係者評価について専門的・客観的(第三者的)立場から行う評価

平成21年4月開校の本校は、平成22年度に学校評価検討委員会を設け、学校評価をどのように導入するかについて検討し、平成22年度は「自己評価」を実施しました。平成23年度より、「自己評価」の内容を精査し、より実態に即した内容で評価項目を設定して実施してきました。また、平成24年度より、「学校関係者評価」として後援会実行委員会4役(会長、副会長、会計、会計監査)の皆様からの評価(ご意見)もいただいております。さらに平成26年度からは、保護者のお声を自己評価に反映させるべく、「保護者アンケート」を実施し、自己評価の充実に努めました。この学校評価により、児童がより良い教育活動を今以上に享受できるよう、学校運営の改善を図り、本校が益々発展することを目指してまいります。

平成28年5月1日

四天王寺学園小学校 校長 前原 聡

■ 教育理念

学校法人四天王寺学園は、聖徳太子がすべての衆生を救わんとする大乘仏教の精神を具現化するために、推古元年（西暦593年）に四箇院の制度を取り入れた四天王寺を建立されたことに始まります。四箇院とは、貧しい人々を救済する悲田院、病人の治療にあたる療病院、薬を分け与える施薬院、仏を敬い、仏教の尊い教えを守って諸悪をなさず、善行を修め、仏の智慧をさとり、知識や技能を修得する敬田院をさします。

この四箇院の制は、1400余年連綿と受け継がれ、悲田院、療病院、施薬院は社会福祉法人四天王寺福祉事業団が継承し、敬田院の教育事業は学校法人四天王寺学園が引き継ぎ、今日に至っています。

その長きにわたる中等教育、高等教育機関としての歴史と伝統のなかで、人間の人格形成に多大な影響を及ぼす幼少期の教育に寄与することが、社会に対して一層の貢献となることを確信し、四天王寺学園小学校が設立されるに至りました。

本校では、時代の変化に鋭敏でありながら、その一方で時の風潮に流されず、学園訓にもある古来より私たち日本人が大切にしてきたものを継承することを大切にしています。そこで、本学園建学の祖である聖徳太子の仏教精神を礎とする倫理・道徳観を涵養し、それと同時に、和を尊び、人と自然をこよなく愛し、共に学び、共に生きる姿勢を培うことを本校の教育の根幹に置きました。

[教育理念]

聖徳太子の精神に則り、和を尊び、人と自然をこよなく愛し、共に学び、共に生きる姿勢を培う。

学園訓

- 一、和を以て貴しとなす
- 一、四恩に報いよ
 - 四恩とは
 - 国の恩
 - 父母の恩
 - 世間の恩
 - 仏の恩なり
- 一、誠実を旨とせよ
- 一、礼儀を正しくせよ
- 一、健康を重んぜよ



たくましく 教養豊かな 日本の心を 育てる

建学の祖である聖徳太子の仏教精神を礎に、「知育」「徳育」「体育」と、古来より私たち日本人が大切にしてきたものの継承に重点をおいた教育に取り組みます。

仏教精神を基盤にした普遍的価値を学ぶ人間教育

- ・ 真のエリートを目指した智慧と教養を身につける・・・・・・・・知
- ・ 自国の伝統や文化を理解し、誇りに思えるようにする・・・・・・・・知
- ・ 勤勉、誠実、謙虚な心を大切にする・・・・・・・・徳
- ・ 正しい振る舞いや正しい礼儀を実践する・・・・・・・・徳
- ・ 他者への優しさを持ち、親や祖先を大切にする・・・・・・・・徳
- ・ 自然に対する畏敬の念をもつ・・・・・・・・徳
- ・ たくましい健康な心と体をつくる・・・・・・・・体

宗教教育（礼拝・瞑想・宗教の時間）・教科指導・特別活動・生活指導



体験を通して普遍的価値を知る

- ・ 文化や伝統を学び、継承する
- ・ 礼儀作法を学ぶ
- ・ 情緒を感じる
- ・ 武道に親しむ

総合的な学習の時間

特別活動（クラブ活動等）

教科を通して知恵と教養を学ぶ

- ・ 読み、書き、計算の基礎技能と基礎的な知識を習得する
- ・ 思考力、応用力を伸ばす
- ・ 表現力を鍛え、感性を高める

国語、算数をはじめとする

各教科・レベルアップタイム

活動を通して心身を鍛える

- ・ 基礎体力を身につける
- ・ 多様な動きを習得する
- ・ 健康や安全に関心をもつ
- ・ 規範意識を身につける

保健体育・給食指導

特別活動・学校行事

平成27年度 重点目標

「確かな基礎学力の定着と様々な活動を通して集中力と忍耐力の醸成を図る。」を重点目標に設定し、児童の夢と希望を叶えるべく、日々の実践に努めます。

また、具体的な方策として、「考える力を高める授業の創造」と「基本的な生活習慣と規範意識の醸成」の2点を掲げて取り組みます。

■ 評価項目

1. 学校運営・学年運営・学級運営

- 教育目標の実現に向け、児童の実態を考慮した計画がなされている
- 小学校の教育理念や教育目標に基づく教育活動ができている
- 教員の児童募集に対する意識高揚がはかられている
- 管理職や教職員同士の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている

2. 仏教教育

- カリキュラムが本校の教育目標に沿うものである
- 種々の宗教行事が指導に生かされている
- 宗教の時間（道徳）の指導時数を確保している
- 宗教の時間をはじめ、教育活動全般を通して仏教精神を生かした指導がなされ、望ましい人格形成に成果をあげている

3. 教務

- 各教科、領域のカリキュラムは適切である
- 一日の校時は妥当である
- 授業の進度はほぼ年間指導計画通りに進むことができている
- チャイムと同時に授業を開始している
- 発問・質疑応答は丁寧である
- 持たせた副教材はすべて十分に活用できている
- 公平で正しい評価をしている
- 学力不振の児童に対する指導と支援は適切である
- 個に応じた指導がなされている
- 年間行事計画は妥当である

4. 入試広報

- 広報計画、広報活動は妥当である
- 情報の発信（HP等）が適切になされている
- 入試において、本校が求める児童を集めることができている

5. 健康教育

- 健康安全・保健指導は、児童の実態や発達段階に応じ、年間指導計画が作成されている
- 健康診断、健康観察、保健相談等により、健康保持、事故防止が適切に行われている
- 適切な教育相談、カウンセリングが行われている
- 体育行事が計画的かつ適切に実施され、児童の健康保持、体力向上に成果をあげている
- 給食のマナーや栄養指導といった給食指導が、適切に行われている
- 正しい掃除の仕方を指導するとともに、清掃用具の整備を行い、清潔で美しい学校にしようとしている

6. 生活指導

- 安全生活指導（防災訓練）が計画的に実施され、危機管理意識の向上につながっている
- 交通安全指導が適切に計画・実施されている
- 学校のきまりや公共のルール、マナーを順守させている
- いじめや問題行動に素早く対応するとともに、未然に防ぐ指導がなされている
- 縦割り活動が計画的に実施され、異年齢集団の交流が図られている

7. 研究研修

- 校内研修や授業研究会が実施され、教員の資質向上に役立っている
- 多様な学力観に対応できるよう研修に努め、授業改善にいかしている
- 初任者研修が計画的に実施され、初任者の指導力向上に役立っている
- いじめ問題を正しく理解し、適切な指導がなされるよう研修に努めている
- モジュールタイムの計画と運用が適切で、児童の学力向上に貢献している

8. 人権教育

- 人権教育の年間指導計画（内容・時数）が児童の実態に即して適切である
- 日々の教育活動に人権教育を生かしている
- 児童間で人権侵害といえるような事象はない
- 児童に対する人権侵害と思える言動はない
- 教職員に対する人権侵害と思える言動はない
- いじめ防止対策の為に組織が機能し、防止、早期発見、対処に役立っている
- 心身の健全な成長に重大な影響を与えるようないじめはない

9. 進路指導

- 進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けて指導している
- 児童に進路希望に沿った適切な進路指導を行い、アドバイスを与えている

■ 評価方法

- ・ 本年度は教員が行う自己評価を実施する
- ・ 評価項目毎に4段階で評価し、分析と考察を行う
 - 当てはまる（A）
 - やや当てはまる（B）
 - あまり当てはまらない（C）
 - 当てはまらない（D）
- ・ 実施対象は全教諭（専任・常勤講師）の22名
- ・ 評価点算出式
$$5 \times A\% + 4 \times B\% + 2 \times C\% + 1 \times D\% = \text{評価点}$$

■ 評価結果の分析と考察

1. 学校運営・学年運営・学級運営

厳しい児童募集状況が続くなか、本校の魅力を高めるためには、学園に通う在校生の満足感を高めるとともに、より積極的な広報活動を行うことで、本校が実践する教育を内外に広め、理解を深めていただくことが大切である。それを受け、本年度は「**確かな基礎学力の定着と様々な活動を通して集中力と忍耐力の醸成を図る**」を重点課題に設定し、日々の実践に努めた。具体的な方策として、「**児童の学力を高める授業改善**」と「**基本的な生活習慣の育成と規範意識の向上**」の2点を掲げて取り組んだ。

本年度の自己評価は、一昨年度や昨年度と比較してより厳しい結果となった。具体的には、各項目（1～4）の得点が項2を除いて低下している。年々新入生の募集が厳しくなるなかで、学校運営の方針に基づいた教育実践に注力したことが伺える。しかし、募集の結果を振り返り、厳しく自己評価した結果が厳しい数値（302ポイント）に表れているともいえる。

また、管理職との関係、或いは教員同士の関係において、喫緊に解決しなければならない課題の共通理解が不十分で、相互の意思疎通が不十分であったことが伺われる。

本年度の重点課題に掲げた「**確かな基礎学力の定着と様々な活動を通して集中力と忍耐力の醸成を図る**」は、その成果が実感できてこそ、在校する児童の保護者の満足感を高めていくことにつながる。それには学力向上の結果を、正確なものさしで保護者に示す手立てが必要である。また、子どもが変わる姿を見ていただき、実感としてご納得いただく手立ても必要である。それが保護者の皆様の満足感を高めることにつながる。

次年度は、全ての分掌や研究体制を見直し、アクティブラーニングや探究型学習をさらに充実させて授業を行うことが求められる。また、教員や管理職がそれぞれの持ち味を生かし、率先垂範して学校を変えるという意気込みで児童の指導にあたるよう努力する必要がある。

2. 仏教教育

本校の教育の基盤は、古くから受け継がれてきた仏教精神である。聖徳太子の精神に則り、和を尊び、感謝の心、誠実、礼儀、健康を大切に、共に学び共に生きる姿勢を培うことに重点をおいている。本年度は「まわりの人やもの、すべてのものを大切に、共に生きる力を培う」「生命の大切さを理解し、尊ぶ」を重点目標に掲げ、豊かな心の教育を目指して仏教教育に取り組んできた。

具体的な方策として「宗教の時間」を設定し、「ともいきタイム」「ともいきの集い」「以和貴タイム」との融合を図ってきた。また道徳の副読本に加え、お釈迦様の教えをもとに書かれた『ブッダがせんせい』の本を全学年に導入し、お釈迦様の言葉から、「本当に大事なこと」を学び取り、お釈迦様の教えを、毎月の心の目標（みほとけのこころ）として掲げ、日々の生活に根付くよう指導してきた。

本年度の自己評価では、全項目においてBの評価が多く見られ、Aの評価の割合が昨年度に比べ低下している。宗教の時間の時数は確保されているものの、実際の成果としては、達成しきれていない部分があると思われる。

徳育の要として仏教教育では、宗教的行事や講話などに加え、思いやり、礼儀、感謝の気持ちなど、心の教育をしっかりとし、それを自ら実践する心と実践する力を身につけて、より良い人格形成を目指すことが大切である。次年度は、教職員が仏教教育について自ら学び実践する姿勢が求められ、さらなる共通理解と児童に対する一貫した指導が必要である。

3. 教務

27年度は「実感をともなった活動を通して、学力の向上と人間形成を図る」を重点課題に設定し、教務部の観点から日々の実践を実施、監督、指導を行った。目標に対する具体的方策として「授業研究を通して客観的な分析・改善を行う」と「カリキュラム、教材の評価・検討」の2点を掲げて取り組んできた。その結果、25年度の反省結果を踏まえ、26年度に引き続き、27年度も学力の向上を目指して教科書内容より高度な内容にも踏み込んだ授業を行う等の授業改善を行った。

授業においては、補習授業であるレベルアップタイム5・7がある程度定着し、4年生から導入したレベルアップ5も一定の成果があったと思われる。

また、子どもたちの学習に対する意欲は、27年度から実用数学技能検定（算数検定）および実用英語技能検定（英検）を実施したことにより、増したものと思われる。

しかし「個に応じた指導がなされ、学力が向上している」について高学年になるほど“当てはまらない”が増えているのは児童の学力差が大きくなっていると考えられるとともに、一斉授業に重点が置かれ個別指導に時間をかけることが困難になってしまっていることが考えられる。

そこで、28年度は、児童の学力を効率的に高めるため、カリキュラムの修正をするとともに、国語・算数において3年生以上で習熟度別クラス編成を実施することを決定している。

また、27年度から実用数学技能検定（算数検定）および実用英語技能検定（英検）を実施することにより、子どもたちの学習に対する意欲が増したものと思われる。

さらに、28年度からは、3年生以上で、実力テスト（育伸社）を年3回とし、学力の更なる向上を目指すための手がかりを導入していくことを決定している。

授業時間の確保については、重点教科に据えた国語や算数の時数を確保するため、音、図、家、体の授業時数超過の防止を徹底し、書写の時間を17時間程度とした。

最後に、子どもたちの学習を記録すると共に、6年間を通した学力の変容を見て行くための個人カルテを作成する。また、補習の時間を充実し、よりていねいに子どもたちへの指導を工夫していく観点から、4年生以上で国・算において週2回小テストを実施し、その結果を授業に活用すると共に、個々の児童の補習に活かして行くこととする。

4. 入試広報

「選ばれる学校」としての広報活動为目标に本年度は取り組んだ。その取り組みは、少子化による厳しい児童募集状況が今後も続くなか、本校の魅力を感じてもらえるよう学校説明会や、学校見学会を企画し実行した。さらに新しいS入試という志願者との対話を通して資質をみる入試制度を取り入れたり、入試回数も2回から3回に増やしたりした。共働き家庭の増加に伴い、放課後の児童預かりの需要を受け、英語活動やEートレ（コンピュータを使った自主学习システム）を導入したアフタースクールも開設し、保護者のニーズに答えられるよう体制を整えた。入学予定者（年長児）に本校にきてもらい、学校が楽しい、行きたい学校であると魅力的に発信でき、保護者に対しても、児童の学力を高める授業を十分に伝えられたものの、進路や他私立小学校との違いを十分に伝えきれなかったのではないかと考えられる。

来年度は、改革をテーマに、確かな学力をつけるために「探究型学習」「英語教育」「難関私立中学校への進路指導」をアピールし、価値ある小学校へとして幅広い広報活動を展開したいと考えている。

5. 健康教育

本年度は、「体力の向上」と「給食の充実と安全」を重点目標とした。年間の学校行事とのバランスを考慮して実施方法を見直した結果、健康教育部の取り組みを効率よく校時に合わせて実施することができた。

「体力の向上」では、なわとびタイムやかけ足タイムなど、個人差により持久力の開きがあるものは、全学年がそろってパワーアップタイムを利用し、運動時間を確実に確保しながら、運動の苦手な子も得意な子も、全ての児童がお互いに楽しんでできる環境づくりから始めた。音楽をかけてすることでより、一層意欲的に取り組むことができていたと感じている。

また、スポーツテストでは、記録を外部委託することにより、個別に総合的な分析ができるようになった。今後は結果をまとめ、担任と体育科が協力して、本校の児童の体力をバランスよく鍛えるようにする。

「給食の充実と安全」では、全学年を対象に出張授業による栄養指導を行うことで食に対する関心を高め、給食サンプルをおくことで配膳しやすいようにした。さらに、安心な給食の提供に細心の注意を払い、問題が生じたときには迅速に対処するように努めている。異物混入等の問題点は早急に改め、再発防止に努めるとともに、今後も安心・安全に給食が食べられるように努力しなければならない。

今後の課題としては、体育的行事や給食指導、保健行事は児童委員会の仕事と連携して、活動を深めていくこと。また、児童の発達段階に即して、学年毎に栄養指導や給食指導、清掃指導等の指導計画を立て、一貫した指導になるようにしていきたいと考える。

6. 生活指導

本年度は重点目標を「自分たちでルールを守る意識をもって生活する」とし、委員会活動などにおいて児童が主体的にルールの遵守に向けた取り組みを行っていけるように指導した。理由として、自分たちが主体となり、学校生活の基盤をつくっていくという考え方をしっかりと定着させていくことで、自らが安全やよりよい生活を意識した暮らしができるからである。

防災訓練や交通安全指導が意図的計画的に行われている。学期毎に行われる防災訓練においては、昨年度よりも一層児童の真剣な参加態度が見られ、防災意識の高まりが感じ取れる状況である。自己評価項目においても、A・B評価で、95%になっていることから読み取れる。交通安全指導においては、毎月行われる交通安全登下校指導を通じて、計画的・持続的な指導を行ってきたが、自己評価項目においては、A・B評価で昨年度よりも17%下がり、74%となった。下校指導時の安全に不安を覚えることがあるなどの意見があり、教員間で、指導内容を共通理解し、徹底していく必要がある。

学校生活のきまりや公共のルール、マナーを遵守することについては、児童会、委員会が中心となってあいさつ運動や廊下歩行のルールの徹底などの安全運動が継続的に行われている。また、全校朝会等において、毎月の生活目標を生活指導の教員で話したり、児童会が話したりするなどの取り組みを加えた。定着までに時間がかかり、継続して粘り強く取り組んでいく必要がある。自主性を大切にしながら、教員がしっかりと声かけや指導を加えていくことで、児童のより良い規範意識を高めていけると考えている。

いじめや問題行動に対しては、児童理解を基本としての個別対応や、問題行動の早期発見、早期解決を図ることを意識して指導している。月に一度、報告会議を開き、各学年の現状を報告・共通理解する場を設けた。問題が生じた場合は、管理職や当該学年と共に対応策を考え、個別や学年という単位ではなく、組織としての対応ができた。さらなる対応の充実を目指していく。

縦割り活動においては、毎週行われる児童集会での縦割り班活動で仲間意識がある程度醸成されてきている。その集大成ともいえる「たいし子ども祭り」の影響が、子どもたちの成長に大きく寄与している。高学年児童は、リーダーとしての自覚を持った発言や行動が認められ、低学年児童はそこで活動しているという状況だけでなく、自分ができることを精一杯行って役に立ちたいという意識で活動に取り組む姿勢が見られた。こういった、高学年は下学年を思い、低学年は上学年に学ぶという学校文化が、学校生活のあらゆる場面に波及している。自己評価においても、D評価は前年度と同じく0%である。

平成28年度は、規範意識の向上として特に登下校時のルール遵守とマナー向上が課題である。登下校指導のあり方も含めて継続した指導と上級生がよき見本となり、下級生を見守る学校の文化を作り上げたいと考えている。

7. 研究・研修

本年度の研究テーマ「自ら学ぶことを通して考える力を培う授業の創造」の具体的方策として「課題意識を育てる発問や探究のプロセスにおける形態の工夫についての実践研究」と「基礎基本の定着への系統化を図と実践」の2点を掲げ、全教科と領域において授業研究を軸に、研修を積み重ねてきた。今年度は、各学年から1本の授業、計6本の研究授業や研究テーマに沿った若手研修等を計画的に実施することができた。その際、単元で、つきたい力を明確にし、児童が興味・関心・意欲を持続させて学ぶことのできる「パフォーマンス課題」の設定という共通の研究課題をもち、授業を創造することにした。課題意識を育てる発問や探究のプロセスについての実践研究により、学習対象から課題を見出し、主体的に追究しながら、論理的な思考力、判断力、表現力を育てていけるような授業の創造と実践につながった。このことが、指導力の向上に役立ち、成果につながった。多様な学力観に対応できる指導力の向上にも努めたことで、項目33から34で、A、Bが80%以上という一定の成果がみられた。

基礎基本の定着においては、開校以来継続している「日本語」の時間、「数」の時間を中心とした反復練習の積み重ねが大きい力となっている。このモジュールタイムの計画と運用が適切になされ、学力向上に貢献していくことができるよう、発達段階に合った教材の見直しと系統化を図った。また、家庭学習についての系統性を図り、自ら課題を持ち、計画性を持った学習スタイルの確立を目指した。このことにより、自己評価はおおむね満足のいくものであった。また、モジュールタイムの計画と運用が適切になされ、学力向上に貢献しているという結果が90%をこえており、着実に基礎基本の力を積み上げることができたといえる。

以上のように、校内の研修会や授業研究会が、計画的に実施されており、教員の授業力向上に成果をあげたことが、児童の学力の向上につながってきている。これは、質の高い研究会が数多く実施されたことの表れである。

28年度への課題は、本年度同様、「パフォーマンス課題」を採用した授業を創造することで、課題意識を育て、発問や探究のプロセスをより深く研究することである。特に探究型学習の充実が求められるなかで、学習対象から課題を見出し、主体的に追究しながら、論理的な思考力、判断力、表現力を育てていけるような授業の創造研究を継続して行い、研鑽を積む予定である。

8. 人権教育

建学の精神をふまえた魅力ある学校づくりには、教員の人権意識の高さが求められる。そこで、人権教育においては「和の精神を大切にする」を重点目標に掲げ、教育活動を推進した。人権教育のカリキュラムは、概ね指導計画に沿って実施されており、児童の実態を意識した適切な指導が行われ、自己評価に概ねよい結果が表れている。

個々の事象に対しては、指導者間の連絡を密にとり、保護者と学校が連携して問題解決に

当たっており、学校生活におけるよりよい人間関係の育成のため、迅速に取り組んできた。

その結果、温かい人間関係が育まれており、それぞれの個性を認め、共に学ぶ姿勢も育ってきていることが伺える。しかしながら、相手を傷つける言葉を発する児童がいたり、思いやりに欠ける行為をしたりという事象があったことも事実である。その都度、事象の中で、当事者自身や、周りの児童にもいじめについて学ばせている。大切な問題であるので、継続して全教職員が児童を見守り、思いやりのある集団への育成が必要である。これからも、日々の学級指導の一層の充実を図り、早期発見・早期対応を図り、常に指導者の資質や能力の相互補完に努め、学校として組織的に対応していくことが不可欠である。

人権教育のさらなる充実を図るために、礼法・以和貴タイムとの関連性を考慮する必要があるという課題も見えてきた。宗教の時間だけにとどまらず、特別活動の時間や各教科の指導を含め、学校生活全体を通しての指導が大切である。

本年度は、昨年度に引き続き、「いじめ防止対策推進法」に則り、「いじめ防止の基本方針」に基づき、校長を中心にした「いじめ対策特別委員会」を設置している。月に一度、いじめ防止対策委員会を行うなど、組織的にいじめの早期発見・早期対応への取り組みを行うことにより、いじめがあった場合の適切な対応に備えている。また、外部より講師を招き、教員のいじめ防止に関する研修を行うことにより、いじめ問題に対して正しい認識をもち、適切な対応や、指導がなされるように共通理解を図ることができた。

以上、組織的かつ計画的に、児童の人権教育が実施されており、指導者の人権に対する意識も向上している。そのような日々の取り組みが、児童の人権意識の高まりにつながる。28年度は、指導者間はもとより、保護者と学校が連携を図り、アンケート調査等を通して実態把握の充実にも努め、組織的に児童の指導に取り組んでいけるようにする。

9. 進路指導

今年度より立ち上がった進路指導部は、「児童の個々の資質やご家庭の教育方針に応じた適切な進路指導を行う」を目標としてきた。

昨年度の反省を踏まえ、今までより早い段階で、学年に応じた内容の説明会を行ったり、四天王寺学園中学校の授業見学を行ったりすることで、中学校の実際の様子を知ってもらい、進学に対する不安を軽減するよう努めてきた。今年度の6年生に関しては、自分の実力にあった中学校を受験することで、希望にそった進路に進むことが出来た。

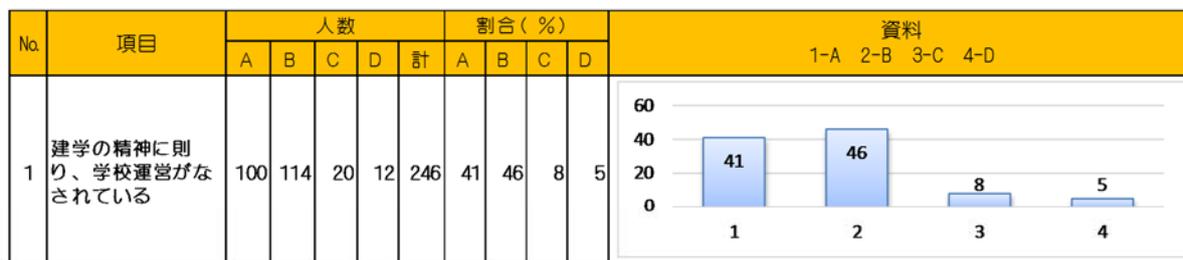
しかし、学園中学校への進学については、学習についていけるかどうかといった不安が多く、その不安を払拭し切れなかったように思われる。それ以外の学年については中学校進学に関して、以前よりも見通しが持てるようになってきたように思われる。

28年度は、はさらに保護者の抱えている不安材料を解消できるよう、学園中学校と内容のすり合わせをし、安心して内部進学を選択できるようにしたい。また、外部受験を希望するご家庭に対しても、適切なアドバイスをを行い、希望を持って中学校へ進学できるようサポートしたい。

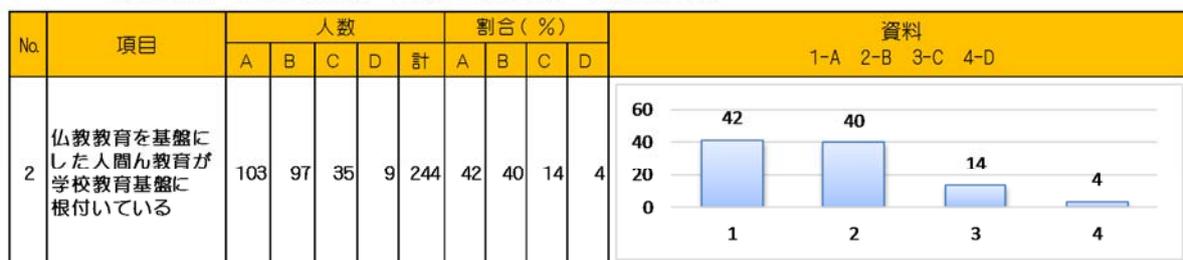
■ 保護者アンケートの結果

■ 保護者アンケート集計

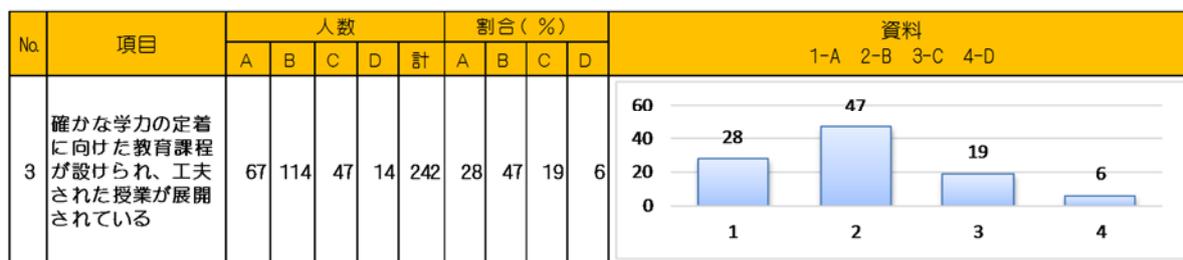
A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)



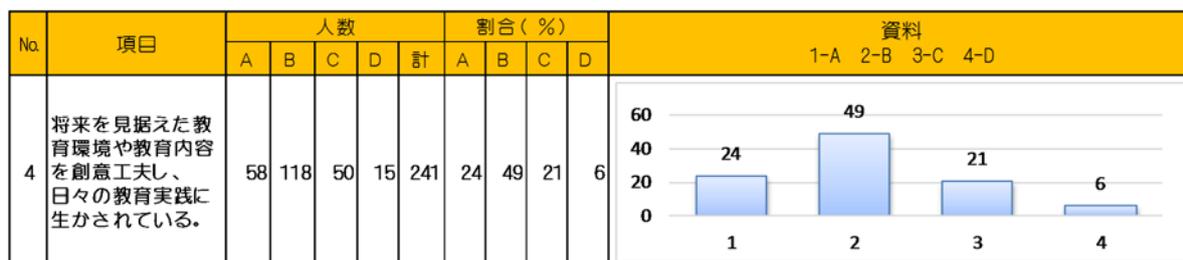
A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)



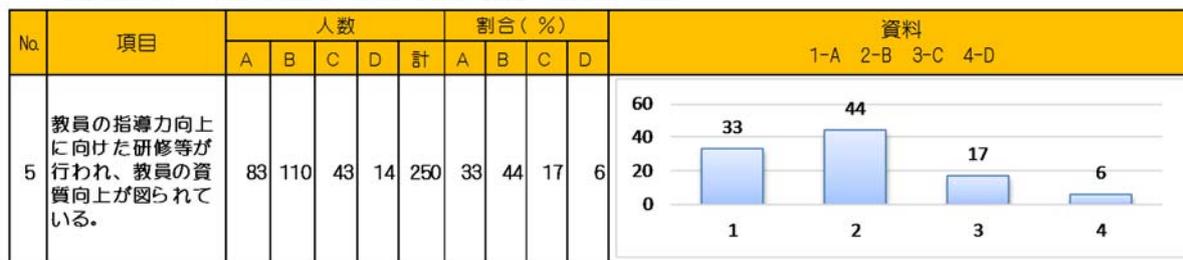
A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)



A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)



A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)



A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料 1-A 2-B 3-C 4-D
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	
6	たくましい健康な体作りと健全な精神の育成がなされている。	82	115	30	12	239	34	48	13	5	

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料 1-A 2-B 3-C 4-D
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	
7	仲間作りを通して個性が尊重され、いじめのない人間関係の醸成がなされている。	78	99	44	12	233	33	42	19	5	

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料 1-A 2-B 3-C 4-D
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	
8	愛校心を育み、高い規範意識をもった子どもを育てている。	72	104	54	11	241	30	43	22	5	

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料 1-A 2-B 3-C 4-D
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	
9	児童の実態に応じた適切な進路指導がなされている。	61	95	55	20	231	26	41	24	9	

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料 1-A 2-B 3-C 4-D
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	
10	積極的な児童募集がなされ、本校が望むような児童が集まっている。	24	97	81	34	236	10	41	34	14	

■ 学校関係者評価

学校関係者評価として、後援会役員(会長、副会長、会計、会計監査の計7名)の皆様に集まっていただき、自己評価の集計結果や日常の教育活動から感じたことなどを出し合っていただき、自己評価と同様の評価項目で評価していただきました。

1. 学校運営・学年運営・学級運営

教育理念が共有され、一人ひとり子ども達をととてもよく見ていただいています。歴史の浅い学校なので、変わっていくことは仕方ないことですが、将来、子ども達にとって素敵な母校となっているようお願いしたいです。

次年度への大きな改革が伝わる中、概ね改革の趣旨には賛同するが、知育ばかりが注目されることのないよう、四天王寺学園小学校の伝統である徳育や体育もさらに充実したバランスのとれた改革を望みます。また、情報提供が総じて遅く、特に高学年の進路決定に大きな影響を及ぼした。改革の必要性は認めるが、在校生への十分な対応を望みます。

教員の配置についても、学級の格差はまだ感じることがあるので、先生方が自己研鑽をさらに積み、学校が発展できるよう努力されることを望みます。今後も保護者の意見に耳を傾けて学校の運営を宜しくお願い致します。

2. 仏教教育

幼い頃の人格形成において、仏教教育が与える影響は大きく、畏敬の年、感謝の気持ち、人に対する思いやりの心が育っています。花まつりに始まる節目節目の仏教行事や「ともいきタイム」「ともいきの集い」は発達段階に応じた内容で実施され、子ども的人格形成に大きく寄与しています。せっかくのいい機会だけに、保護者の参加率が高まりますよう、保護者への啓発をもっとされてもいいと思います。

3. 教務

授業の進度、宿題の量など厳しくよく指導していただき安心していましたが、ある時からレベルの低下を感じています。個の力の伸長を目指した習熟度別に行われているレベルアップタイムでは、難解なプリント演習に重点が置かれている印象があり、理解力がまだ伴っていない子どもへのフォローが足りなかったような気がします。習熟度の違いによる指導法の工夫を望みます。レベルアップタイムは強制ではありませんが、受けずに帰る子どもも少なくないようです。せっかくの取り組みだけにもったいないと感じます。

自主学習とはいえ自主学習ノートの取り組みに個人差がありすぎます。家庭の協力や理解が必要なだけに、御家庭の意識を高め、きっちりとやる習慣化を図るために対策をとってください。教員によって指導法が異なることがあり、統一を望みます。

4. 入試広報

いろいろな広告媒体で四天王寺学園小学校の広告をみるのが多く、多くの方が本校を認識していただいていると思います。

また、積極的に学校の公開や授業見学会が行われ、良い企画だと思いました。ただ、保護者目線に立つと、見学対象学年や環境整備面でまだまだ改善の余地があります。本年度の反省を踏まえ、より良い企画になるよう熟考していただければと思います。

日本語教育の充実と和の精神、仏教精神に基づいた小学校教育が魅力です。そのような点が志願者にうまく発信できたら志願者増につながると思います。

5. 健康教育

本年度はインフルエンザの流行が長期にわたり、常にどこかの学級が学級閉鎖を余儀なくされていた印象を受けました。学校での感染だけが原因ではありませんが、学校生活への影響を最小限にとどめるために、蔓延防止に向けた教室の湿度管理等の何らかの対応が今後必要ではないでしょうか。

清掃活動の様子をみていると、子どもたちは熱心に美化活動を行っていますが、正しい用具の扱い方やトイレ清掃の仕方に課題があると感じました。指導の徹底をお願い致します。

6. 生活指導

平素のご指導に対し感謝申し上げます。本校の子ども達は歩く広告塔でもあります。日頃の指導を世間に認知いただくためにも、一部の子どもではありますが、登下校時のマナーや言動、服装の乱れ等をさらに厳しく指導していただきたいと思えます。

駅から学校までの登下校時、子どもの安全のために各所で見守っていただき安心していきます。支援の充実を図るべく、支援者の増員を検討されてはいかがでしょうか。

7. 研究研修

改革に向けた教員のスキルアップを目指した研修をされていると聞いていますので期待しています。同時に、教授法も大切ですが、全人教育の基盤を占める安定した子ども達の心情や情操を高めることも大切と思えます。互いの子ども達が高めあえる安心・安全な学級運営につながる研究にも力を注いでください。

8. 人権教育

人権という概念はまだ子どもには理解しにくい面もあるが、他人を思いやり、違いを認め合おうという気持ちが育ってきている。しかしながら、子ども同士の言動に人権尊重の精神が欠けている場面に直面することが数多くあるのも事実です。

いじめの被害者や加害者、人間関係をうまく築けない子ども、当該の保護者に対して迅速に対応し、貴重な時間をさいて丁寧な指導をしていただいています。すぐには解決しない難しい課題でもあり、継続した指導をお願いします。

9. 進路指導

入学当初とかなり状況が変わってきているなか、中学校への進学についての情報提供が遅く、また変更に伴う色々な噂なども立ち、それらに翻弄された感があります。今後の改善に期待します。

外部受験が可能となった今、通塾される子どもが増え、学力アップを目指す学校の授業や宿題と受験塾の両立することの難しさを感じています。外部受験者向けの支援を改革前の在校生にも適用し、受験者の負担軽減と受験に特化した相談体制や学力アップ施策を検討して欲しいです。

しっかりとした進路指導を受け、四天王寺学園小学校に6年間通えてよかったと感謝して卒業できるよう、よろしく願いいたします。

■ 重点目標に対する評価と課題

1. 重点目標 **確かな基礎学力の定着と様々な活動を通して集中力と忍耐力の醸成を図る** (P)
2. 具体的方策
 - ・ 児童の学力を高める授業改善 (D)
 - ・ 基本的な生活習慣の育成と規範意識の向上 (D)
3. 評価方法について
重点目標に関連する評価項目について、評価集計で得た得点（計算式は P5 参照）で概ね 400 点越えを目標の達成として評価し、考察する。 (C)
4. 評価項目の結果（得点）

評価項目 (D・C)	H27 得点	H26 得点
教育目標の実現に向け、児童の実態を考慮した計画がなされている	383	418
小学校の教育理念や教育目標に基づく教育活動ができている	401	400
宗教の時間、教育活動全般を通して仏教精神を生かした指導がなされ、望ましい人格形成に成果をあげている	389	345
各教科、領域のカリキュラムは適切である	390	414
授業の進度はほぼ年間指導計画通りに進むことができている	420	409
チャイムと同時に授業を開始している	432	368
持たせた副教材はすべて十分に活用できている	422	386
公平で正しい評価をしている	447	459
学力不振の児童に対する指導と支援は適切である	379	350
個に応じた指導がなされている	373	336
健康安全・保健指導は、児童の実態や発達段階に応じ、年間指導計画が作成されている	389	395
体育行事が計画的かつ適切に実施され、児童の健康保持、体力向上に成果をあげている	404	441
学校のきまりや公共のルール、マナーを順守させている	383	386
いじめや問題行動に素早く対応するとともに、未然に防ぐ指導がなされている	384	400
縦割り活動が計画的に実施され、異年齢集団の交流が図られている	443	455
校内研修や授業研究会が実施され、教員の資質向上に役立っている	443	405
多様な学力観に対応できるよう研修に努め、授業改善にいかしている	414	400
モジュールタイムの計画と運用が適切で、児童の学力向上に貢献している	412	427
人権教育の年間指導計画（内容・時数）が児童の実態に即して適切である	384	359
日々の教育活動に人権教育を生かしている	412	436

5. 次年度に向けて（考察） (A)

平成 26 年度の重点目標は「学校の教育力を高めて児童の学力を向上させる」であった。本年度は、前年度の反省と課題を踏まえ、児童に不足している学習体力（集中力や忍耐力等）に着目し、「確かな基礎学力の定着と、様々な活動を通して集中力と忍耐力の醸成を図る」とした。

評価は、46 項目中関連する 20 項目を抽出し、得点化して評価した。また、参考として前年度の結果とも比較して、成果の進捗を検証した。

400 点未満の項目数は 8 個から 9 個へ 1 つ増加したが、全体的な得点は増加し、危機感を有して取り組んだ成果が表れている。特に授業に対する真摯な取り組みが実を結び、成果をあげている。また、教員の指導力向上に向けた研修や研究活動の充実が図られ、児童の基礎学力向上に寄与している。

次年度は、児童の能力に応じた個に応じた指導の不十分さをうけ、指導体制やカリキュラムの改善が課題である。また、集中力や忍耐力の向上については、規範意識の向上も含めて満足できる実態には達していないことから、継続した学級指導と心身を鍛える取り組みの工夫が必要である。

■ 評価資料

学校運営・学年運営・学級運営 A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				得点	資料			
		A	B	C	D	計	A	B	C	D		1-A	2-B	3-C	4-D
1	教育目標の実現に向け、児童の実態を考慮した計画がなされている	1	16	2	0	19	5	84	11	0	383				
2	小学校の教育理念や教育目標に基づく教育活動ができている	2	16	1	0	19	11	84	5	0	401				
3	教員の児童募集に対する意識高揚がはかられている	1	9	8	1	19	5	47	42	5	302				
4	管理職や教職員同士の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている	2	12	4	1	19	11	63	21	5	354				

仏教教育

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				得点	資料			
		A	B	C	D	計	A	B	C	D		1-A	2-B	3-C	4-D
5	カリキュラムが本校の教育目標に沿うものである	1	13	4	1	19	5	68	21	5	344				
6	種々の宗教行事が指導に生かされている	2	14	3	0	19	11	74	16	0	383				
7	宗教の時間(道徳)の指導時数を確保している	12	7	0	0	19	63	37	0	0	463				
8	宗教の時間をはじめ、教育活動全般を通して仏教精神を生かした指導がなされ、望ましい人格形成に成果をあげている	4	12	3	0	19	21	63	16	0	389				

教務

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				得点 点	資料													
		A	B	C	D	計	A	B	C	D		1-A	2-B	3-C	4-D										
9	各教科、領域のカリキュラムは適切である	6	9	4	0	19	32	47	21	0	390	<table border="1"> <tr><th>Category</th><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><th>Count</th><td>32</td><td>47</td><td>21</td><td>0</td></tr> </table>				Category	1	2	3	4	Count	32	47	21	0
Category	1	2	3	4																					
Count	32	47	21	0																					
10	一日の校時は妥当である	9	10	0	0	19	47	53	0	0	447	<table border="1"> <tr><th>Category</th><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><th>Count</th><td>47</td><td>53</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>				Category	1	2	3	4	Count	47	53	0	0
Category	1	2	3	4																					
Count	47	53	0	0																					
11	授業の進度はほぼ年間指導計画通りに進むことができる	8	9	2	0	19	42	47	11	0	420	<table border="1"> <tr><th>Category</th><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><th>Count</th><td>42</td><td>47</td><td>11</td><td>0</td></tr> </table>				Category	1	2	3	4	Count	42	47	11	0
Category	1	2	3	4																					
Count	42	47	11	0																					
12	チャイムと同時に授業を開始している	8	10	1	0	19	42	53	5	0	432	<table border="1"> <tr><th>Category</th><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><th>Count</th><td>32</td><td>63</td><td>5</td><td>0</td></tr> </table>				Category	1	2	3	4	Count	32	63	5	0
Category	1	2	3	4																					
Count	32	63	5	0																					
13	発問・質疑応答は丁寧である	6	12	1	0	19	32	63	5	0	422	<table border="1"> <tr><th>Category</th><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><th>Count</th><td>32</td><td>63</td><td>5</td><td>0</td></tr> </table>				Category	1	2	3	4	Count	32	63	5	0
Category	1	2	3	4																					
Count	32	63	5	0																					
14	持たせた副教材はすべて十分に活用できている	6	12	1	0	19	32	63	5	0	422	<table border="1"> <tr><th>Category</th><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><th>Count</th><td>32</td><td>63</td><td>5</td><td>0</td></tr> </table>				Category	1	2	3	4	Count	32	63	5	0
Category	1	2	3	4																					
Count	32	63	5	0																					
15	公平で正しい評価をしている	9	10	0	0	19	47	53	0	0	447	<table border="1"> <tr><th>Category</th><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><th>Count</th><td>47</td><td>53</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>				Category	1	2	3	4	Count	47	53	0	0
Category	1	2	3	4																					
Count	47	53	0	0																					
16	学力不振の児童に対する指導と支援は適切である	4	11	4	0	19	21	58	21	0	379	<table border="1"> <tr><th>Category</th><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><th>Count</th><td>21</td><td>58</td><td>21</td><td>0</td></tr> </table>				Category	1	2	3	4	Count	21	58	21	0
Category	1	2	3	4																					
Count	21	58	21	0																					

17	個に応じた指導がなされ、学力が向上している	1	15	3	0	19	5	79	16	0	373	
18	年間行事計画は妥当である	6	8	5	0	19	32	42	26	0	380	

入試広報

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数				計	割合 (%)				得点	資料			
		A	B	C	D		A	B	C	D		1-A	2-B	3-C	4-D
19	広報計画、広報活動は妥当である	1	12	6	0	19	5	63	32	0	341				
20	情報の発信 (HP 等) が適切になされている	3	11	5	0	19	16	58	26	0	364				
21	入試において、本校が求める児童を集めることができている	0	8	8	3	19	0	42	42	16	268				

健康教育

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数				計	割合 (%)				得点	資料			
		A	B	C	D		A	B	C	D		1-A	2-B	3-C	4-D
22	健康安全・保健指導は、児童の実態や発達段階に応じ、年間指導計画が作成されている	4	12	3	0	19	21	63	16	0	389				
23	健康診断、健康観察、保健相談等により、健康保持、事故防止が適切に行われている	8	9	2	0	19	42	47	11	0	420				

24	適切な教育相談、 カウンセリングが行 われている	0	11	5	3	19	0	58	26	16	300	
25	体育行事が計画的 にかつ適切に実施 され、児童の健康保 持、体力向上に成果 をあげている	6	10	3	0	19	32	53	16	0	404	
26	給食の食べ方やマ ナー、栄養指導とい った給食指導が、 適切に行われている	1	16	2	0	19	5	84	11	0	383	
27	正しい掃除の仕方 を指導するととも に、清掃用具の整 備を行い清潔で美 しい学校にしようと している	10	8	1	0	19	53	42	5	0	443	

生活指導

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合(%)				得点 点	資料 1-A 2-B 3-C 4-D
		A	B	C	D	計	A	B	C	D		
28	安全生活指導(防災 訓練)が計画的に 実施され、危機管理 意識の向上に つながっている	7	11	1	0	19	37	58	5	0	427	
29	交通安全指導が 適切に計画・実施 されている	6	8	5	0	19	32	42	26	0	380	
30	学校のきまりや公共 のルール、マナーを 順守させている	2	14	3	0	19	11	74	16	0	383	
31	いじめや問題行動 に素早く対応する とともに、未然に防 ぐ指導がなされて いる	5	10	4	0	19	26	53	21	0	384	

32	縦割り活動が計画的に実施され、異年齢集団の交流が図られている	10	8	1	0	19	53	42	5	0	443	

研究・研修

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				得点	あつて
		A	B	C	D	計	A	B	C	D		
33	校内研修や授業研究会が実施され、教員の資質向上に役立っている	10	8	1	0	19	53	42	5	0	443	
34	多様な学力観に対応できるよう研修に努め、授業改善に生かしている	6	11	2	0	19	32	58	11	0	414	
35	初任者研修が計画的に実施され、初任者の指導力向上に役立っている	9	5	3	2	19	47	26	16	11	382	
36	いじめ問題を正しく理解し、適切な指導がなされるよう、研修に努めている	4	11	4	0	19	21	58	21	0	379	
37	モジュールタイムの計画と運用が適切になされ、児童の学力向上に貢献している	5	13	1	0	19	26	68	5	0	412	

人権教育

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				得点	資料			
		A	B	C	D	計	A	B	C	D		1-A	2-B	3-C	4-D
38	人権教育の年間指導計画(内容・時数)が、児童の実態に即して適切である	3	13	3	0	19	16	68	16	0	384				

39	日々の教育活動に 人権教育を生かしている	5	13	1	0	19	26	68	5	0	412	
40	児童間で人権侵害 といえるような事象 はない	4	8	5	2	19	21	42	26	11	336	
41	児童に対する人権 侵害と考える言動 はない	5	11	3	0	19	26	58	16	0	394	
42	教職員に対する 人権侵害と思え る言動はない	8	9	2	0	19	42	47	11	0	420	
43	いじめ防止等の対策 の為に組織が機能し、 いじめの防止早期発 見、いじめの対処に 役立っている	6	11	2	0	19	32	58	11	0	414	
44	心身の健全な成長 及び人格の形成に 重大な影響を与え るようないじめは 認められない	6	11	0	2	19	32	58	0	11	403	

進路指導

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合(%)				得点	資料			
		A	B	C	D	計	A	B	C	D		1-A	2-B	3-C	4-D
45	進路説明会等、保護 者が必要とする進路 情報を提供する場を 設けて指導している	2	10	5	2	19	11	53	26	11	330				
46	児童に進路希望に 沿った適切な進路 指導を行い、アドバ イスを与えている	1	11	7	0	19	5	58	37	0	331				

日本漢字能力検定受験結果（平成25年～）

平成25年度

級	申込者	欠席者	受検者	合格者	合格率
2級	1	0	1	1	100.0
準2級	3	0	3	1	33.3
3級	2	0	2	2	100.0
4級	30	1	29	17	58.6
5級	66	0	66	59	89.4
6級	63	3	60	56	93.3
7級	54	1	55	49	89.1
8級	41	0	41	38	92.7
9級	60	2	58	56	96.6
10級	45	1	44	44	100.0
合計	364	8	358	322	89.9

※平成25年度 奨励賞 受賞

平成26年度					
級	申込者	欠席者	受検者	合格者	合格率
2級	2	0	2	1	50.0
準2級	3	0	3	2	66.7
3級	10	1	9	6	66.7
4級	53	2	51	29	56.9
5級	66	3	63	57	90.5
6級	53	1	52	46	88.5
7級	47	1	46	40	87.0
8級	55	2	53	49	92.5
9級	53	1	52	52	100.0
10級	45	0	45	45	100.0
合計	387	11	376	327	87.0

※平成26年度 奨励賞 受賞

平成27年度					
級	申込者	欠席者	受検者	合格者	合格率
2級	2	0	2	1	50.0
準2級	5	0	5	1	20.0
3級	3	0	3	3	100.0
4級	53	0	53	42	79.2
5級	50	0	50	44	88.0
6級	61	2	59	48	81.4
7級	47	1	46	41	89.1
8級	44	0	44	43	97.7
9級	45	1	44	42	95.5
10級	33	0	33	33	100.0
合計	343	4	339	298	87.9

※平成27年度 奨励賞 受賞